

原稿作成要領

【原稿作成要領】

タイトルページには1)～4)を記載してください

1) タイトルとサブタイトル（日本語，英語）

2) 著者氏名（日本語（ふりがな），英語）

お一人でも複数名でも結構です。

3) 著者所属（日本語，英語）

機関名，部署名，住所までお書きください。肩書き複数の場合，複数お書き頂いても構いません。

4) 責任著者連絡先

連絡がとれる電話番号，Fax，メールアドレスをお書きください。

5) 要旨，キーワード

要旨の文字数は日本語 500 字以内でお願いします。キーワードは 5 つ以内です。

6) 本文 本誌では句読点を「，」「。」としています。ご注意ください。

見だし部分をゴシック体とし，改行して本文に移ってください。

1. はじめに

ブラブラブラ

2. ○○○○○○

3. ○○○○○○

3. 1. ○○○○○○ 各セクション内で項目を立てる場合（中見出し）

3. 2. ○○○○○○

4. ○○○○○○

4. 1. 1. 更に細かい項目を立てる場合（小見出し）

4. 1. 2.

4. 2.

・

・

5. おわりに セクション数に制限はありません。

謝辞

文献 参考文献リストについては下記をご覧ください

図のタイトルと説明

日本語でお書き下さい。タイトルは「図 1. -----」のようにお書き下さい

7) 表

表のタイトルは表の上に日本語で「表 1. -----」のようにお書き下さい。また、表の説明は表の下に日本語でお書きください。表中の文字は日本語でも英語でも結構です。

8) 図

図は鮮明なものをお作りください。図中の文字は日本語でも英語でも結構です（図のタイトルと説明は日本語です）。

参考文献リスト

Journal of Applied Glycoscience（本学会英文誌）の投稿規定（添付 09_JAG_IA-MP.pdf, 4 ページ下部から）に従ってください。

本文中に登場する順に[1], [2,3], [4-6]のように番号を付け, Vancouver referencing style に従い, リストアップしてください。著者が 6 名以下の場合には, すべての著者を記載してください。引用文献の著者が 7 名以上の場合には, 最初の 6 名のみを挙げ, その後に "et al." と記してください。出版中 (in press) の論文を引用する場合は, 入手可能であれば, デジタルオブジェクト識別子 (DOI) を記載してください。未発表の結果, 準備中の論文, ウェブサイトの引用については, 本文中に括弧内で記載できますが, 参考文献リストには含めないでください。雑誌の略号は NLM Catalog (<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/nlmcatalog/journals>) に従ってください。

(例)

雑誌引用の場合

- [1] Chaen H. Studies on novel enzymes for synthesis of trehalose from starch. *J Appl Glycosci.* 1997; 44: 77–82.
- [2] McCarter JD, Withers SG. 5-Fluoro glycosides: a new class of mechanism-based inhibitors of both α - and β -glucosidases. *J Am Chem Soc.* 1996; 118: 241–42.
- [3] Kumagai A, Tada S, Nozaki K, Mizuno M, Kanda T, Suzuki S, et al. Enzymatic production of glucosylxylose using a cellobiose phosphorylase-yeast combined system. *J Appl Glycosci. Adv. Pub.* 2010 Nov 29; JAG-2010_008. Available from: https://doi.org/10.5458/jag.jag.JAG2010_008.
- [4] 鹿島 騰真, 加藤 紀彦, 山田 千早, 片山 高嶺, 芦田 久, 伏信 進矢: *Bifidobacterium bifidum*由来の硫酸化ムチン糖鎖および血液型抗原分解酵素の構造基盤. *応用糖質科学.* 2023; 13: 192–202

書籍引用の場合

- [5] Young AH. Fractionation of starch. In: Whistler RL, BeMiller JN, Paschall EF, editors. *Starch: Chemistry and Technology.* 2nd ed. New York: Academic Press;1984. p. 249–83.

- [6] 檜作 進. 澱粉粒のX線回折. 二國二郎監修. 澱粉科学ハンドブック, 東京, 朝倉書店; 1977. p. 208–212.

書籍であっても, 次に類するものは雑誌と同様に扱う.

- [7] Hicks KB. High-performance liquid chromatography of carbohydrates. *Adv Carbohydr Chem Biochem*. 1988; 46: 17–72.
- [8] Salton MRJ. Chemistry and function of amino sugars and derivatives. *Annu Rev Biochem*. 1965; 34: 143–74.
- [9] Lehle L, Tanner W. Synthesis of raffinose-type sugars. *Methods Enzymol*. 1972; 28: 522–30.

学会講演要旨集の場合

- [10] 松沢智彦, 矢追克郎. *Aspergillus oryzae* 由来イソプリメベロース生産酵素の同定と解析. *応用糖質科学*. 2017; 7, Suppl., 56. 藤沢.
- [11] Chen YL, Morrison NA. Unique functional properties of microfibrillar cellulose. *Abstract Book of XIX International Carbohydrate Symposium, 1998 Aug 9-14; San Diego, CA, USA*. AP 111.

特許の場合

- [12] 日本食品化工(株), 高橋康盛, 戸塚篤史, 中久喜輝夫, 中村信之. 高純度マルトース水溶液の製造方法, 特開平 4-271793, 1992-09-28(または特許第 3062264 号, 2000-04-28).
- [13] Muramatsu M, Nakakuki T, Kainuma S, Miwa T, inventor; Nihon Shokuhin Kako Co., Ltd., assignee. Production Method of Branched Fructooligosaccharides. United States patent US 5334516. 1994 Aug 2.

プレプリントの場合

- [14] Nolan M, Pesaran B, Shlizerman E, Orsborn AL. Multi-block RNN autoencoders enable broadband ECoG signal reconstruction. *bioRxiv*, 2022.09.07.507004 [preprint]. 2022 [cited 2023 Feb 9]: [16 p.]. Available from: doi: <https://doi.org/10.1101/2022.09.07.507004>.

ご不明な点がございましたら, 下記までお問い合わせください.

日本応用糖質科学会 和文誌編集委員長
本多 裕司

(原稿送り先) → 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 332-6
(株) 国際文献社内

日本応用糖質科学会編集部 担当 小野淳一
電話 03-6824-9362 E-mail: bag@bunken.co.jp